

イスラム・パターンを調べる上で重要な巻物がある。それがトプカピ宮殿に所蔵されているところから「トプカピ・スクロール」と名付けられている。作られた時期は15世紀末～16世紀初頭、場所はサファヴィー朝のイランと推定されている。巻物には100以上の図版が収められているが、現存した建物のために描かれたモノではないらしく、そのせいか損傷も少なく保存状態が良好であった。図版の大半はムナルカスと幾何学パターンの下図で、他にカリグラフィが少々である。中世以前のイスラム建築や装飾については、ほとんど資料が残されていないので、この幅33cm長さ29.5mの巻物が唯一の貴重な手掛かりとなっている(図1)。

1986年、この巻物が宮殿博物館図書館員によって発見され、ハーバード大学の学者が詳細を写し出して出版した(モノクロ版)。(図2)いまや絶版で入手困難となっているが、幸いネットで読むことができる。またネットでは実物のカラー複写も多数あげられていて(図3)、数学者たちの格好の研究材料として取り扱われている。

もうひとつ知られた巻物がある。それが「ミルザ・アクバル建築巻物(The Mirza Akbar Architectural Scrolls)」で、ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に収蔵されている。こちらは、1874年～75年にテヘランに滞在していたイギリスの建築家キャスパー・パードンクラークが地元業者から入手した2巻の巻物で、いずれも高さ225mm長さ約28m。特定の建築物の設計元図として完結した巻物ではなく、年代や場所も異なるさまざまな図面が貼り合わされており、なかにはヨーロッパから輸入された図版も一部混在しているらしい。トプカピ・スクロールほど古くないが、図面の保存状態が良好で、貴重な手掛かりであることには変わりはなく、これもネット検索で居ながらにして見る事が出来る(図4)。なんとも有り難いことである。

この他に、16世紀頃にウズベキスタンのブラハで作られたとされているタシュケント・スクロールがある。こちらもネットで一部を確認することができるが、図版の数は前出の2巻と比べて少ないようだ。

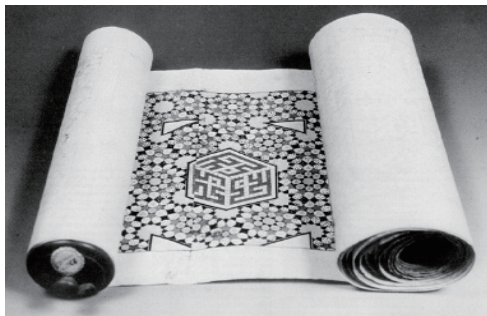


図1. トプカピ・スクロール (The Topkapi Svroll)  
<http://www.thegatesofparadise.com/topcopy/scroll1.jpg>

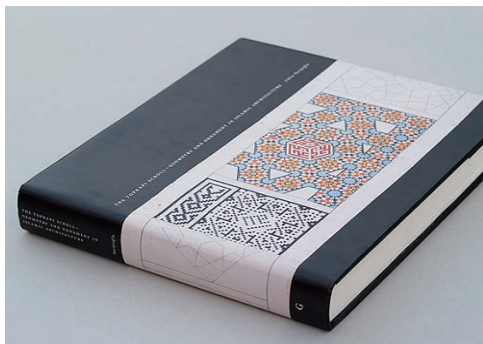


図2. THE TOPKAPI SCROLL -  
GEOMETRY AND ORNAMENT  
IN ISLAMIC ARCHITECTURE  
Gülru Necipoglu  
Published by The Getty Center for the History  
of Art and the Humanities, 1995  
[http://www.simonjohnstondesign.com/book\\_topkapi01.html](http://www.simonjohnstondesign.com/book_topkapi01.html)

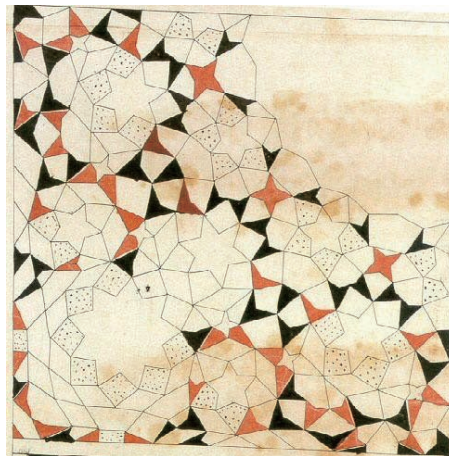


図3. トプカピ・スクロールの一部  
<https://www.alamy.com/stock-photo-topkapi-scroll-p294-muqarnas-134793802.html>

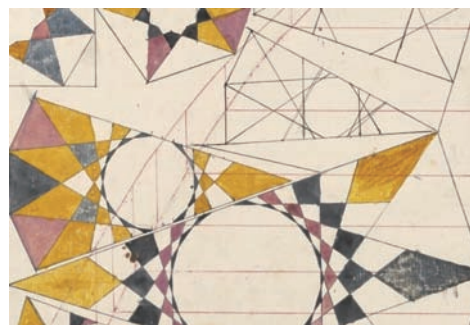


図4. ミルザ・アクバル建築巻物の一部  
<https://patterninislamicart.com/drawings-diagrams-analyses/7/mirza-akbar-architectural-scrolls/ma029>